



[令和 6 年 1 月 10 日 定例会発表要旨]

## ウチの人って一体だれなの……

手稲郷土史研究会 会員 一ノ宮 博昭

はじめに…戦争は平穏な小さな家庭を一気にぶち壊す。それだけでない。若き日の決して口外できない秘めごととも無残に暴き出す。書棚のすみに保存されていた 47 年前の署名入り終戦特集記事は、残酷な事実として浮き彫りにしている。以下はその詳細である。



**次の船に乗る、実家で待ってろ…**取材のきっかけとなったのは、老夫人が小生宅に来て、聞かせてくれた一言だった。「ウチの人ったら、もう 4 年も手紙が来ない。生きてるのか、死んでしまったのかさえわからない」というものだった。訴えの主を久保田マツノさん（当時 58 歳）といい、樺太に残留した夫を町田<sup>まちだ</sup>巻太郎<sup>まきたろう</sup>さん（年齢不詳）といった。夫は丸彦渡辺建設の帳場だったが、敗戦とともに仕事もなくなり「食堂でも開くか」と話し合っていた。

引き揚げ希望者でこった返す豊原の駅で乗車する寸前、ソ連当局から飛行場建設計画の細部を知りたいといわれているので、次の船に乗るからお前は実家の青森県深浦町で待ってくれと伝えたまま雑踏の中に消えた。マツノさんに見れば、これが夫の最後の言葉だった。実家といっても長逗留は許されず、遠戚を頼って手稲に来たのだった。

当時、稲穂の西端にミンクを飼育する東邦ミンク会社というのがあった。マツノさんはこの会社の賄婦をしていた。この間、マツノさんは何通も手紙を書き、安否を聞いた。にもかかわらず、巻太郎さんから一度も返信はなかった。「よーし、それでは、私が安否をたずねてやる」といつってしまったのが、樺太の人捜しのきっかけになった。

**巻太郎さん直筆の手紙、写真…**捜してやるといい切ったものの、ロシア文字もわからない小生にとって、どこから手をつければいいのか八方ふさがりだった。

道庁民生部（当時）に出向いたところ、情報がわんさとあり、この中に巻太郎さんの直筆の手紙、顔写真まで保存されていた。

直筆には、残留者のために日々尽力をいただきお礼の申しようもないと書き、自分は必ず帰国すべく準備をしているとつづっていた。

そこで小生は、本人はもとより、豊原、泊岸、敷香に残留している日本語の搜索願いの手紙を書いた。宛名は先方から届いた手紙を真似して書いた。正直、返信はあまり当てにしていなかったが、予想もしていなかったロシア文字の手紙が新聞社に届いた。

**酔って川に転落、凍死の報…**手紙の主は敷香在住の<sup>ふるはたとしかつ</sup>降旗利勝さんからだった。

手紙の概略は以下のようなものだった。あまり深いお付き合いがあるわけではないがと断りながら、残留日本人に問い合わせたところ、猛吹雪の夜、酔って帰宅途中、橋から転落、全面結氷していた川面に頭を直撃、死亡したと聞いた。3 年前のできごとだった。

相ついで、訃報が届いた。豊原の油本重次郎さん、泊居の望月コトさんらだった。コトさんは知人

十数人に連絡、私も葬儀に参列し、みんなで香典を出し合って葬儀もすませたとあった。町田さんは、マツノさんと別れたのち、ロシア人と結婚し、2人暮らしをしていたとも書かれていた。

体調を崩したマツノさんは、近くのルカ病院（現イムス内科クリニック）に入院していた。死亡の報をすぐ伝えられなかった。どう伝えればいいのか、正直悩んだ。

知らぬふりを決めこむわけにもいかず、道民生部に問い合わせた。すると、妙案があることがわかった。それによると、国外で死亡したケースについて、現地在住の日本人3人が証言してくれば、国から5万円の弔慰金が出る。これを持参して「実は」と切り出したらどうかと提案された。弔慰金を受け取るには、死亡者の戸籍をとりよせる必要があった。町田さんの本籍地は東京だ。今ほど個人情報うるさい時代でなかったから、簡単に手配できた。

小生は病室のマツノさんに、くわしく事実を伝えた。あと数日で戸籍も送ってもらえるとの自信があったからだ。マツノさんは意外と冷静で、そんなことじゃないかと予想していたとだけ語った。

**生きていた！別の本物…** 謄本だけが送られてきたものとばかり思っていたが、これに相違して、びっくり仰天するような事実だった。なんと、町田さんは長野県諏訪市に転居されてますネというのだ。

小生は、情報の内容をより深くしようと取材を続けた。町田さんの写真を複写し、これを樺太からの引き上げ者に見せた。北25西3付近に引揚者が住む市営住宅が沢山あった。当然、町田さんとは顔見知りだった。写真を見るなり、町田だと証言した。みんな町田と口をそろえた。

この中に、村役場に籍をおき、飲み仲間もいた。「オレは言ったんだ。そろそろ身を固めろ」というと、「今、準備をしているところだ」とあいまいな返事をしていたという。

マツノさんとの結婚生活は8年におよんだ。この間、巻太郎さんの実家には一度も行ったことがなく、手紙を出したこともなかった。あとは、今日、サケ一匹送ったからなといったことがあったという。マツノさんは私もうかつだったとくやんでいる。



当時の新聞記事(筆者提供)

さて、もう一人の町田さんとはどんな人なのか。何か事情があって、他人の戸籍を流用しているのではないのか。記者の頭には諏訪市の人物が二セ者との認識があった。

ところが、取材を進めるうち、諏訪市の男性が本物らしくなってきたのである。記者は電話や手紙で正体を聞いた。

それによると、長野の町田さんは4、5才のころ、親類のいる横浜で、鉄工場のハンマーで右手指3本をつぶしてしまい、兵役も除隊になった身体障害者だった。右手指3本がなければ、銃を使うこともできないというわけだ。自分の戸籍が利用されている事について、ご本人は「特別な感想はない。本人が私になりすまして得をしたなら、そ

れもいいじゃないか」とあっさりしたものだった。

つまり、どう見ても樺太の町田巻太郎は二セ者で、長野県諏訪市の町田巻太郎さんが本物という結果になったのである。

**数奇な運命、降旗さんの場合…**取材にて敷香の降旗さんとは、町田巻太郎事件後、すっかり懇意となり、一度もお目にかかったことはないが、夫人ともども多大な苦勞を重ねてきた。

降旗さんは、もともと中知床岬の灯台守だった。終戦とともに引き揚げる機会はいくらでもあった

のだが、男児はみな丸刈りにされ、米軍に徴用される、女兒は米軍の慰め物にされるとうわさが飛びかい、子だくさんの降旗さんは帰国の機会を失った。

当時、王子製紙敷香工場で、職員を募集していることを知り、一家そろって北上し、ついに電気取扱の責任者になった。ロシア語の勉強は並大抵ではなかったと手紙に記している。

一方、ヨウ夫人は子供が多勢いたことから、ソ連当局から「母の勇者」として讃えられ、在留日本人から「あの一家はアカだ」と陰口をたたかれたこともあった。望郷の念を抱きつつも、降旗さん夫婦は敷香で他界した。

昨年、降旗さんの二男がウクライナ紛争で孫娘を連れて旭川に、長男は稚内に、姉妹は札幌市東区でそれぞれ生活している。

**紙媒体の将来**…新聞の発行部数は目をおおうばかりに急減している。その最大の理由は、スマホの急成長がある。

ソ連の共産党機関紙・プラウダが一日あたり 1300 万部を発行して世界一だったが、ソ連の崩壊で霧消し、読売が 1003 万部で世界一だった。一日あたり 600 万をやや上回り、世界一の座を守っている。が、これとてあやしい限りを見せているのは正直なところだ。全国の主要都市で印刷し、これを車に積んで販売店に運び、それから 1 軒 1 軒配って歩く個別配達制度は近い将来、姿を消す運命にあるかも知れない。

「新聞発行部数」日本 ABC 協会調べ（朝刊、令和 5 年 1 月現在）

	販売部数（北海道）	販売部数（全国）
朝 日 新 聞	67,766	3,747,070
毎 日 新 聞	17,179	1,778,871
読 売 新 聞	154,753	6,424,774
北海道 新 聞	825,506	

## ★手稲郷土史研究会会員募集中！

手稲郷土史研究会では、手稲と手稲に関する歴史・文化に興味があり、一緒に学んでいきたい方の入会を随時募集しています！毎月 1 回、手稲区内にて定例会を開催し、会員による研究発表や外部講師を迎えての講演等を行っています。定例会では会報誌「郷土史ていね」を配布し、希望する会員へ郵送、メールもお送りしております。年会費 3,000 円、入会金不要です。

入会は入会申込書、またはメールからお申し込みください。折り返しご連絡致します。

入会申込書から…手稲郷土史研究会パンフレットにあります「入会申込書」に必要事項を記入し手稲郷土史研究会会員へお渡し、またはご郵送ください。

メールから…氏名、住所、電話番号、メールアドレスを記載し、手稲郷土史研究会メールアドレスまでお申込みください。

いただいた個人情報につきましては、当研究会の活動にのみ使用し管理致します。入会についてご質問等ございましたら、お問い合わせください。

次回定例会 ⇒ 発表内容「北海道のヒグマ対策史」武市尚子（手稲郷土史研究会 会員）

3月13日（水）18：15～ / 手稲区民センター 3階 視聴覚室 ※会員でない方のご参加は事前の申し込みが必要です。

手稲郷土史研究会会報「郷土史ていね」第190号 令和6年2月14日発行

発行責任者：沖田絃昭（手稲郷土史研究会 会長） 編集：岡和田夢子

❖〒006-0818 札幌市手稲区前田 8 条 11 丁目 4-5 林俊一方 手稲郷土史研究会 ❖TEL 090-3381-4994 ❖FAX 011-682-9874

❖メールアドレス teinekyoudoshi@gmail.com <担当 岡和田>